

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人真宗大谷学園

## (2) 大学名

大谷大学

## (3) 大学の位置

〒603-8143

京都府京都市北区小山上総町20番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タジマ ヒロシ) 但馬 弘 (平成28年12月19日)		
学長	(キゴシ ヤスシ) 木越 康 (平成28年4月1日)		
学部長	(シドウ シュウシ) 志藤 修史 (平成30年4月1日)		
学科長等 (現代社会学科)	(タカイ ヤスヒロ) 高井 康弘 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
社会学部 現代社会学科 学士(社会学)	社会学・社会福祉学関係	4年	120人	- 年次人	480人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	120 ( ) [ ]	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	1.03 倍	
志願者数	1466 ( ) [ ]	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
受験者数	1435 ( ) [ ]	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
合格者数	243 ( ) [ ]	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
B 入学者数	124 ( ) [ ]	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
入学定員超過率 B/A	1.03									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	124 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	
2年次	/		[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] [ ] ( )	[ ] [ ] ( )	
計	124 [ - ] ( - )		[ ] [ ] ( )		[ ] [ ] ( )		[ ] [ ] ( )		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	124 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
合 計	124 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{124} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。





科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
現代総合科目	キャリア形成系科目	画像処理応用	1・2・3・4後	2							兼1
		PCミュージック入門	1・2・3・4前	2							兼1
		PCミュージック応用	1・2・3・4後	2							兼1
		Webサイト構築入門	1・2・3・4前	2							兼1
		Webサイト構築応用	1・2・3・4後	2							兼1
	自然生命系科目	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前	2							兼1
		自然と生物の科学	1・2・3・4後	2							兼1
		地震と火山1	1・2・3・4前	2							兼1
		地震と火山2	1・2・3・4後	2							兼1
		地球科学1	1・2・3・4前	2							兼1
		地球科学2	1・2・3・4後	2							兼1
		地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後	2							兼1
		こころの科学	1・2前	2							兼1
		人間理解の心理学	1・2後	2							兼1
		スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前	2							兼1
		スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後	2							兼1
		脳とこころ	1・2・3・4前	2							兼1
障害者スポーツ論	1・2・3・4後	2							兼1		
生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4後	2							兼1		
スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1		
障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1		
スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1		
障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1		
カウンセリング	1・2・3・4前	2							兼1		
身体活動Ⅰ	1・2・3・4前	1							兼2		
身体活動Ⅰ(障害者スポーツ)	1・2・3・4前	1							兼1		
身体活動Ⅱ	1・2・3・4後	1							兼2		
身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)	1・2・3・4後	1							兼1		
人間関係と身体表現	1・2・3・4前	2							兼1		
障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前	2							兼1		
現代総合科目	歴史文化系科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)	1・2・3・4後	2							兼1
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス)	1・2・3・4後	2							兼1
		現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2							兼1
		現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2							兼1
		東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		近代日本とアジア	1・2・3・4後	2							兼1
		東アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2							兼1
		仏教と美術	1・2・3・4後	2							兼1
		インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼1
		中国の宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼1
		人と文化	2・3・4後	2							兼1
		教育学1	1・2・3・4前	2							兼1
		教育学2	1・2・3・4後	2							兼1
		ブッダに学ぶ	1・2・3・4前	2							兼1
		親鸞に学ぶ	1・2・3・4後	2							兼1
		部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前	2							兼1
		部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後	2							兼1
		部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前	2							兼1
		部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後	2							兼1
部落史論1	1・2・3・4前	2							兼1		
部落史論2	1・2・3・4後	2							兼1		
反カースト運動論	1・2・3・4後	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
現代総合科目	キャリア形成系科目	画像処理応用	1・2・3・4後	2							兼1
		PCミュージック入門	1・2・3・4前	2							兼1
		PCミュージック応用	1・2・3・4後	2							兼1
		Webサイト構築入門	1・2・3・4前	2							兼1
		Webサイト構築応用	1・2・3・4後	2							兼1
	自然生命系科目	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前	2							兼1
		自然と生物の科学	1・2・3・4後	2							兼1
		地震と火山1	1・2・3・4前	2							兼1
		地震と火山2	1・2・3・4後	2							兼1
		地球科学1	1・2・3・4前	2							兼1
		地球科学2	1・2・3・4後	2							兼1
		地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後	2							兼1
		こころの科学	1・2・3・4前	2							兼1
		人間理解の心理学	1・2・3・4後	2							兼1
		スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前	2							兼1
		スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後	2							兼1
		脳とこころ	1・2・3・4前	2							兼1
障害者スポーツ論	1・2・3・4後	2							兼1		
生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4後	2							兼1		
スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1		
障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1		
スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1		
障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1		
カウンセリング	2・3・4前	2							兼1		
身体活動Ⅰ	1・2・3・4前	1							兼2		
身体活動Ⅰ(障害者スポーツ)	1・2・3・4前	1							兼1		
身体活動Ⅱ	1・2・3・4後	1							兼2		
身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)	1・2・3・4後	1							兼1		
人間関係と身体表現	1・2・3・4前	2							兼1		
障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前	2							兼1		
現代総合科目	歴史文化系科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)	1・2・3・4後	2							兼1
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス)	1・2・3・4後	2							兼1
		現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2							兼1
		現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2							兼1
		東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		近代日本とアジア	1・2・3・4後	2							兼1
		東アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2							兼1
		仏教と美術	1・2・3・4後	2							兼1
		インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼1
		中国の宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼1
		人と文化	2・3・4後	2							兼1
		教育学1	1・2・3・4前	2							兼1
		教育学2	1・2・3・4後	2							兼1
		ブッダに学ぶ	1・2・3・4前	2							兼1
		親鸞に学ぶ	1・2・3・4後	2							兼1
		部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前	2							兼1
		部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後	2							兼1
		部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前	2							兼1
		部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後	2							兼1
部落史論1	1・2・3・4前	2							兼1		
部落史論2	1・2・3・4後	2							兼1		
反カースト運動論	1・2・3・4後	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4前		2								兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4後		2								兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4前		2								兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4後		2								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4後		2								兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4後		2								兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4前		2								兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4後		2								兼1

- (注)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)



(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

・専任担当者の担当コマ数の事情（旧学科科目の担当開講科目数の増加）により別の専任教員に担当を変更。	
「学びの発見」	准教授→講師
「フィールドワーク技法基礎」	教授→講師
・前年度受講者の状況や要望、兼任担当者の事情等を勘案した受講対象学年・開講期別の変更	
「発想から表現」	後期→前期
「日本語表現（入門）」	1・2・3・4→1・2
「日本語表現（実践）」	前期→後期
「PC利用による表計算入門」	2・3・4→1・2・3・4
「PC利用による表計算応用」	2・3・4→1・2・3・4
「こころの科学」	1・2→1・2・3・4
「人間理解の心理学」	1・2→1・2・3・4
「カウンセリング」	1・2・3・4→2・3・4
「東アジアの宗教文化」	前期→後期
「アイヌ民族と共に」	前期→後期

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
148 科目	141 科目	0 科目	289 科目	148 科目	141 科目	0 科目	289 科目	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。
-------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{289} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大谷大学短期大学部と 共用			
	校舎敷地	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>				
	小 計	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>				
合 計	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大谷大学短期大学部と 共用 登記及び教員の所属変 更に伴う変更 (30)				
	6,236.11 m <sup>2</sup> 6,160.94 m <sup>2</sup> (6,236.11 m <sup>2</sup> ) (6,160.94 m <sup>2</sup> )	47,260.21 m <sup>2</sup> 46,989.56 m <sup>2</sup> (47,260.21 m <sup>2</sup> ) (46,989.56 m <sup>2</sup> )	450.46 m <sup>2</sup> 447.08 m <sup>2</sup> (450.46 m <sup>2</sup> ) (447.08 m <sup>2</sup> )	53,946.78 m <sup>2</sup> (53,946.78 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 科目開講実態に対応し た環境整備による変更 (30)			
	63 66 室	52 49 室	40 室	8 室 (補助職員 0人)	室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	社会学部 現代社会学科			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体、大谷大学短期 大学部との共用 ①学術雑誌：重複登録雑 誌を除外したため(30) ②電子ジャーナル：利用 実態を勘案し、契約更新 時に一部解約したため (30) ③視聴覚資料：再生不能 になった資料を削除した ため(30)	
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	社会学部 現代社会学科	882,796[181,621] <del>(846,796 [175,621])</del> (863,572 [181,405])	6,561[667] <del>(6,481 [647])</del> (6,479 [640])	589[530] <del>(589 [530])</del> (116 [ 0])	2,100 <del>(2,080)</del> (2,078)	30 (30)	0 (0)		
	計	882,796[181,621] <del>(846,796 [175,621])</del> (863,572 [181,405])	6,561[667] <del>(6,481 [647])</del> (6,479 [640])	589[530] <del>(589 [530])</del> (116 [ 0])	2,100 <del>(2,080)</del> (2,078)	30 (30)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
	7,604.82 m <sup>2</sup>		588	1,115,833					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	4,857.06 m <sup>2</sup>		柔 道	場 弓	道 場				
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は大学全 体。 図書購入費、設備購入 費は、大谷大学短期大 学部との共用図書およ び設備として購入。 図書費には、電子 ジャーナル・デー タベースの整備費を含 む。 図書購入費および設備 購入費の増減は、執行 の見直しおよび予算額 の変更による。(30)
		教員 1 人 当り 研究費等	350 千円	350 千円	図書購入費	52,458 千円 65,970 千円	63,028 千円 65,000 千円	65,000 千円	
		共 同 研 究 費 等	80,000 千円	80,000 千円	設備購入費	40,150 千円 38,300 千円	39,836 千円 8,000 千円	8,000 千円	
	学生 1 人 当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,190 千円	1,140 千円	1,140 千円	1,140 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称		大谷大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
<b>社会学部</b>										
現代社会学科	4	120	-	480	学士 (社会学)	1.03	平成30年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
コミュニティサイエンス学科	4	100	-	400	学士 (社会学)	1.03	平成30年度		同上	
<b>教育学部</b>										
教育学科	4	130	-	520	学士 (教育学)	1.07	平成30年度		同上	
初等教育コース	4	50	-	200	学士 (教育学)	1.22	平成30年度		同上	
幼児教育コース	4	80	-	320	学士 (教育学)	0.98	平成30年度		同上	
<b>文学部</b>										
真宗学科	4	60	-	240	学士 (文学)	0.87	昭和40年度		同上	
仏教学科	4	25	-	100	学士 (文学)	1.20	昭和24年度		同上	
哲学科	4	50	-	200	学士 (文学)	0.83	昭和24年度		同上	
社会学科	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	昭和40年度		同上	平成30年学生募集停止
歴史学科	4	100	-	400	学士 (文学)	1.19	昭和40年度		同上	
文学科	4	70	-	280	学士 (文学)	1.21	昭和40年度		同上	
国際文化学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.05	平成5年度		同上	
人文情報学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	平成12年度		同上	平成30年学生募集停止
教育・心理学科	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成21年度		同上	平成30年学生募集停止
大学の名称		大谷大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
<b>文学研究科</b>										
真宗学専攻										
(修士課程)	2	20	-	40	修士 (文学)	0.67	昭和28年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	1.22	昭和30年度		同上	
仏教学専攻										
(修士課程)	2	15	-	30	修士 (文学)	0.43	昭和28年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.77	昭和30年度		同上	
哲学専攻										
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.10	昭和29年度		同上	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	昭和31年度		同上	

社会学専攻												
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (文学)	-	平成11年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地	平成30年学生募集停止			
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	平成13年度					
仏教文化専攻												
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.55	昭和29年度	同上				
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.22	昭和31年度					
国際文化専攻												
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.00	平成11年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地				
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	平成13年度					
教育・心理学専攻												
(修士課程)	2	8	-	16	修士 (教育学)	0.06	平成25年度	同上				

大学の名称	大谷大学短期大学部								備考
-------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業 年限	入 定 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
仏教科	2	-	-	-	短期大学士 (仏教)	-	昭和40年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地	平成30年学生募集停止
幼児教育保育科	2	80	-	160	短期大学士 (幼児教育保育学)	0.91	昭和24年度	同上	

大学の名称	九州大谷短期大学								備考
-------	----------	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業 年限	入 定 員	編入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
仏教学科	2	10	-	20	短期大学士 (仏教学)	0.75	昭和45年度	福岡県筑後市蔵数 495-1	
表現学科	2	50	-	100	短期大学士 (表現学)	1.27	昭和45年度	同上	
幼児教育学科	2	100	-	200	短期大学士 (幼児教育学)	0.80	昭和45年度	同上	
福祉学科	2	35	-	70	短期大学士 (介護福祉学)	0.38	平成11年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、**下線を引いてください**。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<社会学部 現代社会学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

【平成33年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>			<就任(予定)年月>			<就任(予定)年月>			<就任(予定)年月>
専	教授	滝口 直子 (62) <平成30年4月>	専	教授	滝口 直子 (62) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 社会学入門 文化人類学 フィールドワーク技法基礎 社会学文献講読(人間関係) 1 社会学文献講読(人間関係) 2 卒業研究			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b <b>(削除)</b> フィールドワーク入門1 フィールドワーク入門2 社会学文献講読(現代文化) 2 エスノグラフィ講読・作成1 卒業研究						
専	教授	高井 康弘 (61) <平成30年4月>	専	教授	高井 康弘 (61) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b フィールドワーク技法基礎 フィールドワーク入門1 フィールドワーク入門2 社会学文献講読(現代文化) 2 エスノグラフィ講読・作成1 卒業研究			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b						
専	教授	脇中 洋 (58) <平成30年4月>	専	教授	脇中 洋 (58) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 犯罪と社会 社会統計演習1 社会統計演習2 卒業研究			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 犯罪と社会 社会統計演習1 社会統計演習2 卒業研究						
専	教授	柴田 みゆき (54) <平成30年4月>	専	教授	柴田 みゆき (54) <平成30年4月>						
		社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 情報社会論 社会統計基礎 メディア・コミュニケーション 分析1 メディア・コミュニケーション 分析2 社会情報学文献講読1 卒業研究			社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 情報社会論 社会統計基礎 メディア・コミュニケーション 分析1 メディア・コミュニケーション 分析2 社会情報学文献講読1 卒業研究						
専	教授	野村 明宏 (47) <平成30年4月>	専	教授	野村 明宏 (47) <平成30年4月>						
		社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 社会学入門 現代文化論 ソーシャル・ドキュメント分析1 ソーシャル・ドキュメント分析2 社会学文献講読(現代文化) 1 卒業研究			社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 社会学入門 現代文化論 ソーシャル・ドキュメント分析1 ソーシャル・ドキュメント分析2 社会学文献講読(現代文化) 1 卒業研究						
専	教授	阿部 利洋 (44) <平成30年4月>	専	教授	阿部 利洋 (44) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 社会学入門 ソーシャル・ドキュメント分析 1 ソーシャル・ドキュメント分析 2 卒業研究			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 社会学入門 ソーシャル・ドキュメント分析 1 ソーシャル・ドキュメント分析 2 卒業研究						
専	准教授	田中 正隆 (50) <平成30年4月>	専	准教授	田中 正隆 (50) <平成30年4月>						
		学びの発見 社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 現代社会論 現代社会とコミュニケーション グローバルゼーション論 社会学文献講読(公共社会) 2			<b>(削除)</b> 社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 現代社会論 現代社会とコミュニケーション グローバルゼーション論 社会学文献講読(公共社会) 2						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	徳田 剛 (46) <平成30年4月>	専	准教授	徳田 剛 (46) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 個人と公共 社会問題論 地域社会論 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2 社会学文献講読(公共社会)1			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 個人と公共 社会問題論 地域社会論 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2 社会学文献講読(公共社会)1						
専	准教授	渡邊 拓也 (43) <平成30年4月>	専	准教授	渡邊 拓也 (43) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 人間関係論 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2 卒業研究			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 人間関係論 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2 卒業研究						
専	講師	高橋 真 (40) <平成30年4月>	専	講師	高橋 真 (40) <平成30年4月>						
		社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 比較心理学 社会統計基礎 社会統計演習1 社会統計演習2 卒業研究 インターンシップ1大学コンソ 京都			社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 社会学演習 IV a 社会学演習 IV b 比較心理学 社会統計基礎 社会統計演習1 社会統計演習2 卒業研究 インターンシップ1大学コンソ 京都 <b>学びの発見</b>						
専	講師	古谷 伸子 (39) <平成30年4月>	専	講師	古谷 伸子 (39) <平成30年4月>						
		社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 現代社会基礎 フィールドワーク入門1 フィールドワーク入門2 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2			社会学演習 I a 社会学演習 I b 社会学演習 II a 社会学演習 II b 社会学演習 III a 社会学演習 III b 現代社会基礎 フィールドワーク入門1 フィールドワーク入門2 探究フィールドワーク1 探究フィールドワーク2 <b>フィールドワーク技法基礎</b>						
兼任	教授	ロバート ローズ (65) <平成31年4月>	兼任	教授	ロバート ローズ (65) <平成31年4月>						
		人間学 II			人間学 II						
兼任	教授	荒瀬 克己 (64) <平成30年4月>	兼任	教授	荒瀬 克己 (64) <平成30年4月>						
		探究基礎演習			探究基礎演習						
兼任	教授	織田 顕祐 (64) <平成31年4月>	兼任	教授	織田 顕祐 (64) <平成31年4月>						
		人間学 II			人間学 II						
兼任	教授	朴 一 功 (64) <平成30年4月>	兼任	教授	朴 一 功 (64) <平成30年4月>						
		日本語表現(入門)			日本語表現(入門)						
兼任	教授	山下 憲昭 (62) <平成30年4月>	兼任	教授	山下 憲昭 (62) <平成30年4月>						
		インターンシップ2大谷大学 キャリアデザイン実践1 キャリアデザイン実践2			インターンシップ2大谷大学 キャリアデザイン実践1 キャリアデザイン実践2 <b>市民活動論</b>						
兼任	教授	平尾 良治 (61) <平成31年4月>	兼任	教授	平尾 良治 (61) <平成31年4月>						
		地域福祉論1 地域福祉論2			地域福祉論1 地域福祉論2						
兼任	教授	一楽 真 (60) <平成30年4月>	兼任	教授	一楽 真 (60) <平成30年4月>						
		人間学 I 人間学 II			人間学 I 人間学 II						
兼任	教授	渡辺 啓真 (59) <平成30年4月>	兼任	教授	渡辺 啓真 (59) <平成30年4月>						
		情報と倫理			情報と倫理						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>		専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>		専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	
		担当授業科目名				担当授業科目名				担当授業科目名	
兼任	教授	木越 康 (56) <平成31年4月>	木越 康 (56) <平成31年4月>		教授	木越 康 (56) <平成31年4月>			教授	木越 康 (56) <平成31年4月>	
		仏教社会論	仏教社会論								
兼任	教授	志藤 修史 (56) <平成32年4月>	志藤 修史 (56) <平成32年4月>		教授	志藤 修史 (56) <平成32年4月>			教授	志藤 修史 (56) <平成32年4月>	
		地方自治論	地方自治論								
兼任	教授	福島 栄寿 (53) <平成31年4月>									
		人間学Ⅱ									
兼任	教授	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月>	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月>		教授	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月>			教授	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月>	
		人間学Ⅱ 地震と火山1	人間学Ⅱ 地震と火山1								
兼任	教授	田中 久美子 (48) <平成32年4月>	田中 久美子 (48) <平成32年4月>		教授	田中 久美子 (48) <平成32年4月>			教授	田中 久美子 (48) <平成32年4月>	
		社会心理学 社会心理学文献講義1 社会心理学文献講義2	社会心理学 社会心理学文献講義1 社会心理学文献講義2								
兼任	准教授	藤原 正寿 (55) <平成30年4月>	藤原 正寿 (55) <平成30年4月>		准教授	藤原 正寿 (55) <平成30年4月>			准教授	藤原 正寿 (55) <平成30年4月>	
		部落差別と大谷派教団1 部落差別と大谷派教団2 部落史論1 部落史論2	部落差別と大谷派教団1 部落差別と大谷派教団2 <del>部落史論1</del> <del>部落史論2</del>								
兼任	准教授	武田 和哉 (53) <平成31年4月>	武田 和哉 (53) <平成31年4月>		准教授	武田 和哉 (53) <平成31年4月>			准教授	武田 和哉 (53) <平成31年4月>	
		社会情報学文献講義2	社会情報学文献講義2								
兼任	准教授	喜多 恵美子 (51) <平成30年4月>	喜多 恵美子 (51) <平成30年4月>		准教授	喜多 恵美子 (51) <平成30年4月>			准教授	喜多 恵美子 (51) <平成30年4月>	
		現代朝鮮半島事情	現代朝鮮半島事情								
兼任	准教授	酒井 恵光 (51) <平成31年4月>	酒井 恵光 (51) <平成31年4月>		准教授	酒井 恵光 (51) <平成31年4月>			准教授	酒井 恵光 (51) <平成31年4月>	
		情報技術論	情報技術論								
兼任	准教授	三宅 伸一郎 (51) <平成30年4月>	三宅 伸一郎 (51) <平成30年4月>		准教授	三宅 伸一郎 (51) <平成30年4月>			准教授	三宅 伸一郎 (51) <平成30年4月>	
		PC利用によるレポート・論文技法 ブダに学ぶ	PC利用によるレポート・論文技法 ブダに学ぶ								
兼任	准教授	采罌 晃 (49) <平成31年4月>	采罌 晃 (49) <平成31年4月>		准教授	采罌 晃 (49) <平成31年4月>			准教授	采罌 晃 (49) <平成31年4月>	
		人間学Ⅱ	人間学Ⅱ								
兼任	准教授	井上 摩紀 (48) <平成30年4月>	井上 摩紀 (48) <平成30年4月>		准教授	井上 摩紀 (48) <平成30年4月>			准教授	井上 摩紀 (48) <平成30年4月>	
		人間関係と身体表現	人間関係と身体表現								
兼任	准教授	藤田 義孝 (48) <平成30年4月>	藤田 義孝 (48) <平成30年4月>		准教授	藤田 義孝 (48) <平成30年4月>			准教授	藤田 義孝 (48) <平成30年4月>	
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス)	ヨーロッパの宗教と文化(フランス)								
兼任	准教授	箕浦 晴雄 (48) <平成30年4月>	箕浦 晴雄 (48) <平成30年4月>		准教授	箕浦 晴雄 (48) <平成30年4月>			准教授	箕浦 晴雄 (48) <平成30年4月>	
		中国の宗教と文化 反カースト運動論	中国の宗教と文化 反カースト運動論								
兼任	准教授	山田 恵文 (47) <平成30年4月>	山田 恵文 (47) <平成30年4月>		准教授	山田 恵文 (47) <平成30年4月>			准教授	山田 恵文 (47) <平成30年4月>	
		人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ								











専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	講師	濱野 亮介 (33) <平成30年4月> 東アジアの宗教文化									
兼任	講師	児島 庸介 (31) <平成30年4月> 生命のしくみと多様性 自然と生物の科学												
			兼任	講師	古俣 慎也 (30) <平成30年4月> 生命のしくみと多様性 自然と生物の科学									
兼任	講師	井上 慧真 (28) <平成30年4月> 大衆文化論												

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
 ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。  
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。  
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

(記入例)

- ・ 学科専門科目「フィールドワーク技法基礎」の担当を専任講師に変更。
- ・ 共通基礎科目「学びの発見」の担当を専任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「探究基礎演習」の担当を専任教授に変更。
- ・ 学科専門科目「市民活動論」を旧学科と共通で開講することから、専任講師のみの担当に加え旧学科兼任教授の担当を追加。
- ・ 共通基礎科目「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」の担当を専任教授に変更。
- ・ 共通基礎科目「人間学Ⅰ」の担当を専任教授に変更。
- ・ 共通基礎科目「人間学Ⅱ」の担当を専任准教授に変更。
- ・ 現代総合科目「部落史論1・2」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「発想から表現へ」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 共通基礎科目「英語Ⅰ」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「PC利用による表計算入門・応用」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 学科専門科目「大衆文化論」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「生涯スポーツ・レクリエーション」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「東アジアの宗教文化」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「生命のしくみと多様性」「自然と生物の科学」の担当を他の兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
6	3	2	0	11	6	3	2	0	11	6	3	2	0	11
(6)	(3)	(2)	(0)	(11)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記 (B)）の教員 のうち、定年を延長して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員うち、 定年を延長して採用する 教員数
65 歳	0	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{11} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>該当なし。</p>
--------------

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未 履 行 事 項 に つ い て の 実 施 計 画
設 置 時 (平成30年4月)	①大谷大学文学部文学科の入学定員超過の是正に努めること ②大谷大学短期大学部仏教科及び九州大谷短期大学福祉学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	留意事項 ①平成29年度の超過率が1.61倍となつてことについて、入学定員の厳格化に努め、平成30年度は0.91倍となった。 ②大谷大学短期大学部仏教科については、その教育機能を文学部へ発展的に統合し、平成30年度より学生募集を停止することとした。 九州大谷短期大学福祉学科については、学生募集の強化に努めるも0.34倍という結果になった。さらなる募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進め	未履行 九州大谷短期大学福祉学科については、入学者支援を含めた募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進める。
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未履行
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未履行
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未履行
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			未履行
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			未履行
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			履行済

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の  
寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等  
について、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を  
全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。  
その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入して  
ください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

## 7 その他全般的事項

<社会学部 現代社会学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p><b>教務委員会「FD部会」</b></p> <p>全学をあげて取り組む姿勢を明確にするため、教務委員会の中にカリキュラムの検討を中心とする「教務部会」と、FD活動を中心とする「FD部会」とを2007年度に設置。FD活動とカリキュラムの連携を図りながら、取り組みを進めている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>本学として必要なFD活動を検討するFD部会を年6回程度開催。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p><b>FD部会の審議及び推進事項（教務委員会規程第3条第2号）</b></p> <p>ア 教育内容及び授業方法改善のための具体案(各授業科目における「授業計画(シラバス)」の記載内容の確認を含む。)</p> <p>イ 授業評価アンケートの活用</p> <p>ウ FDIに係る研究会及び研修会の実施</p> <p>エ FDIに係る調査及び研究</p> <p>オ その他FDに關すること。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p><b>FD部会活動内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新任教員向けFD研修会の実施</li> <li>・ 授業評価アンケートの活用による授業優秀賞・事情確認科目の検討、事情確認対象科目担当者への確認</li> <li>・ 授業優秀賞受賞科目の授業公開の実施</li> <li>・ 全学的な教職員向けFD研修会の実施</li> <li>・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告</li> <li>・ 「授業計画(シラバス)」の記載内容確認及び修正が必要な科目の内容修正依頼</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <p>全学的は研修会や授業公開については、非常勤講師も含め実施を告知。対象者が限定されるものについては、原則、対象者全員参加として呼びかけている。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p>
---

- ・ 新任教員向けFD研修会（2017年6月28日実施）
- ・ 授業評価アンケートの活用（2017年10月9日・2018年3月26日FD部会にて検討・決定）
- ・ 授業公開の実施（2017年11月15日～12月25日に開催：対象科目6科目）
- ・ 教職員向けFD研修会の実施（2017年11月22日開催、講師：本学教授 荒瀬 克己）
- ・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告（FD部会にて随時報告）
- ・ 「授業計画（シラバス）」の記載内容の確認（2018年2月実施）
- ・ 教職員向けFD研修会については、研修会内容をビデオ撮影し、学内ネットワークにて動画配信を実施（非常勤講師を含め本学教職員限定配信）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修会や懇話会を開催することにより、本学学生の実情を把握し、本学の教育理念や育成する学生像の共有を図り、継続的な授業改善に取り組むことの意識付けを行っている。

個々の授業担当者の資質向上を図るために、「学生による授業評価アンケート」を活用し、半期ごとの振り返りをおこなっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価アンケート」を、本学の内部質保証に係るFDとして、本学の教育システムの不断の点検・改善に役立てると同時に、授業担当者が日頃の教育活動の成果を確認し、今後の授業改善の参考資料として活用するために、全学を対象に実施している。

前期については、6月下旬から7月上旬に実施。後期については、12月上旬から12月中旬にかけて実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケート結果については、各授業担当者に科目ごとに報告される。アンケート内容は、Ⅰ. 授業について、Ⅱ. 授業における受講生の取り組みについて、Ⅲ. 総合評価、Ⅳ. 担当教員が設定する独自の設問、Ⅴ. 自由記述からなっており、数値やグラフにして提供している。

受講学生に対しては、学内ネットワーク上に科目ごとの評価結果を公開し、自由に閲覧できるようになっている。また、大学全体及び学部ごとの評価結果を大学HP上に公開し、社会一般からの閲覧に供している。

公開の時期は、ともに前期が10月頃、後期が3月頃に公開をおこなっている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

建学の理念を仏教、殊に浄土真宗に据え、いかなる時代・社会の状況においても、自己と人間の課題を深く見つめ、人間の立脚地を考えつづける姿勢をその学びの根幹においてきた。つまり、自己の信念の確立を建学の理念として掲げ、学修、研究をすすめてきた。その達成の状況は、建学の理念、教育目標のもとに各方針、教育内容やその方法等を体系的に関連づけた体制として構築し、各学部・学科、各研究科・専攻とも学生に対する教育、研究指導を完全に実施しており、そのことは、平成27年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、同協会の大学基準に適合していると認定された。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

・平成30年7月下旬頃 公表予定

##### b 公表方法

・内部質保証委員会委員、各学部・学科及び各研究科・専攻の長、並びに事務部長に報告書を配付。  
・大学ホームページ上に公開（平成30年7月下旬頃を予定）

#### ③ 認証評価を受ける計画

・平成34年度に、公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受ける予定で準備を進めている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報公表に関する事項

#### ○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (  有 ) ・ (  無 )

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 ( 平成30年 10月 1日予定 )

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人真宗大谷学園

## (2) 大学名

大谷大学

## (3) 大学の位置

〒603-8143

京都府京都市北区小山上総町20番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タジマ ヒロシ) 但馬 弘 (平成28年12月19日)		
学長	(キゴシ ヤスシ) 木越 康 (平成28年4月1日)		
学部長	(シドウ シュウシ) 志藤 修史 (平成30年4月1日)		
学科長等 (コミュニティ デザイン学科)	(マツカワ タカシ) 松川 節 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
社会学部 コミュニティ デザイン学科 学士(社会学)	社会学・社会 福祉学関係	4 年	100 人	- 年次 人	400 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100 ( - ) [ - ]								1.03 倍	
志願者数	767 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
受験者数	744 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
合格者数	273 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
B 入学者数	103 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
入学定員超過率 B/A	1.03									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	103 [ - ] ( - )	0 [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
計	103 [ - ] ( - )		[ ] ( )		[ ] ( )		[ ] ( )		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。



(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	103人	0人	平成27年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
合計	103人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{103} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。







科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置				兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由		教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4年	2									兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4年	2									兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4年	2									兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4年	2									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数				専任教員等の配置				兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由		教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4年	2									兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4年	2									兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4年	2									兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4年	2									兼1

- (注)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

・専任担当者の担当コマ数の事情（旧学教科目の担当開講科目数の増加）により別の専任教員に担当を変更。	
「コミュニティデザイン演習Ⅰb」	講師→准教授
・前年度受講者の状況や要望、兼任担当者の事情等を勘案した受講対象学年・開講期別の変更	
「発想から表現」	後期→前期
「日本語表現（入門）」	1・2・3・4→1・2
「日本語表現（実践）」	前期→後期
「PC利用による表計算入門」	2・3・4→1・2・3・4
「PC利用による表計算応用」	2・3・4→1・2・3・4
「こころの科学」	1・2→1・2・3・4
「人間理解の心理学」	1・2→1・2・3・4
「カウンセリング」	1・2・3・4→2・3・4
「東アジアの宗教文化」	前期→後期
「アイヌ民族と共に」	前期→後期

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
144 科目	204 科目	0 科目	348 科目	144 科目	204 科目	0 科目	348 科目	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。
-------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{348} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大谷大学短期大学部 と共用			
	校舎敷地	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>				
	小 計	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>				
合 計	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>					
(2) 校 舎	専 用		共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大谷大学短期大学部 と登記及び教員の所属 変更に伴う変更共 用(30)			
	6,236.11 m <sup>2</sup> 6,160.94 m <sup>2</sup> (6,236.11 m <sup>2</sup> ) (6,160.94 m <sup>2</sup> )	47,260.21 m <sup>2</sup> 46,989.56 m <sup>2</sup> (47,260.21 m <sup>2</sup> ) (46,989.56 m <sup>2</sup> )	450.46 m <sup>2</sup> 447.08 m <sup>2</sup> (450.46 m <sup>2</sup> ) (447.08 m <sup>2</sup> )	53,946.78 m <sup>2</sup> (53,946.78 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 科目開講実態に対応 した環境整備による 変更(30)			
	63 66 室	52 49 室	40 室	8 室 (補助職員 0人)	室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		社会学部 コミュニティデザイン学科		11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体、大谷大学短期 大学部との共用 ①学術雑誌：重複登録雑 誌を除外したため(30) ②電子ジャーナル：利用 実態を勘案し、契約更新 時に一部解約したため (30) ③視聴覚資料：再生不能 になった資料を除外した ため(30)	
	社会学部 コミュニティデ ザイン学科	882,796[181,621] -(846,796 [175,621]) (863,572 [181,405])	6,561[667] -(6,481 [647]) (6,479 [640])	589[530] -(589 [530]) (116 [ 0])	2,100 (2,080) (2,078)	30 (30)	0 (0)		
	計	882,796[181,621] -(846,796 [175,621]) (863,572 [181,405])	6,561[667] -(6,481 [647]) (6,479 [640])	589[530] -(589 [530]) (116 [ 0])	2,100 (2,080) (2,078)	30 (30)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数						
	7,604.82 m <sup>2</sup>	588	1,115,833						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	4,857.06 m <sup>2</sup>	柔 道	場	弓 道	場				
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は大学 全体。 図書購入費、設備購 入費は、大谷大学短 期大学部との共用図 書および設備として 購入。 図書費には、電子 ジャーナル・デー タベースの整備費を含 む。 図書購入費および設 備購入費の増減は、 執行の見直しおよび 予算額の変更によ る。(30)
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	350 千円	350 千円	図書購入費	52,458 千円 65,970 千円	63,028 千円 65,000 千円	65,000 千円	
	共 同 研 究 費 等	80,000 千円	80,000 千円	設備購入費	40,150 千円 38,300 千円	39,836 千円 8,000 千円	8,000 千円		
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,190 千円	1,140 千円	1,140 千円	1,140 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	大谷大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
社会学部										
コミュニティデザイン学科	4	100	-	400	学士 (社会学)	1.03	平成30年度		同上	
現代社会学科	4	120	-	480	学士 (社会学)	1.03	平成30年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
教育学部										
教育学科	4	130	-	520	学士 (教育学)	1.07	平成30年度		同上	
初等教育コース	4	50	-	200	学士 (教育学)	1.22	平成30年度		同上	
幼児教育コース	4	80	-	320	学士 (教育学)	0.98	平成30年度		同上	
文学部										
真宗学科	4	60	-	240	学士 (文学)	0.87	昭和40年度		同上	
仏教学科	4	25	-	100	学士 (文学)	1.20	昭和24年度		同上	
哲学科	4	50	-	200	学士 (文学)	0.83	昭和24年度		同上	
社会学科	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	昭和40年度		同上	平成30年学生募集停止
歴史学科	4	100	-	400	学士 (文学)	1.19	昭和40年度		同上	
文学科	4	70	-	280	学士 (文学)	1.21	昭和40年度		同上	
国際文化学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.05	平成5年度		同上	
人文情報学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	平成12年度		同上	平成30年学生募集停止
教育・心理学科	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成21年度		同上	平成30年学生募集停止
大学の名称	大谷大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
文学研究科										
真宗学専攻										
(修士課程)	2	20	-	40	修士 (文学)	0.67	昭和28年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	1.22	昭和30年度		同上	
仏教学専攻										
(修士課程)	2	15	-	30	修士 (文学)	0.43	昭和28年度		京都府京都市北区 小山上総町20番地	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.77	昭和30年度		同上	
哲学専攻										
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.10	昭和29年度		同上	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	昭和31年度		同上	

社会学専攻													
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (文学)	-	平成11年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地	平成30年学生募集停止				
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	平成13年度						
仏教文化専攻													
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.55	昭和29年度	同上					
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.22	昭和31年度						
国際文化専攻													
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.00	平成11年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地					
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	平成13年度						
教育・心理学専攻													
(修士課程)	2	8	-	16	修士 (教育学)	0.06	平成25年度	同上					

大学の名称	大谷大学短期大学部									備考
-------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
仏教科	2	-	-	-	短期大学士 (仏教)	-	昭和40年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地	平成30年学生募集停止
幼児教育保育科	2	80	-	160	短期大学士 (幼児教育保育学)	0.91	昭和24年度	同上	

大学の名称	九州大谷短期大学									備考
-------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
仏教学科	2	10	-	20	短期大学士 (仏教学)	0.75	昭和45年度	福岡県筑後市蔵数 495-1	
表現学科	2	50	-	100	短期大学士 (表現学)	1.27	昭和45年度	同上	
幼児教育学科	2	100	-	200	短期大学士 (幼児教育学)	0.80	昭和45年度	同上	
福祉学科	2	35	-	70	短期大学士 (介護福祉学)	0.38	平成11年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については, 必ず記入するとともに, **下線を引いてください**。
  - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<社会学部 コミュニティデザイン学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

【平成33年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>				
		担当授業科目名	担当授業科目名		担当授業科目名	
専	教授(学部長)	志藤 修史 (54) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 現代社会と福祉2 現代社会と福祉2 地方自治論 プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV 卒業研究	志藤 修史 (54) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 現代社会と福祉2 現代社会と福祉2 地方自治論 プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV 卒業研究 <b>プロジェクト研究入門 I</b> <b>プロジェクト研究入門 II</b>			
専	教授	西村 雄郎 (61) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン概論 地域と経済 コミュニティ形成論 コミュニティプランニング論 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV	西村 雄郎 (61) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン概論 地域と経済 コミュニティ形成論 コミュニティプランニング論 <b>(削除)</b> <b>(削除)</b> プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV			
専	教授	平尾 良治 (60) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 社会福祉学連史 地域福祉論1 地域福祉論2 プロジェクト研究入門 I 卒業研究	平尾 良治 (60) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 社会福祉学連史 地域福祉論1 地域福祉論2 プロジェクト研究入門 I 卒業研究			
専	教授	松川 節 (57) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b 社会情報学概論1 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV	松川 節 (57) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b 社会情報学概論1 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV			
専	教授	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月> 人間学 II コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 地域と環境 災害と防災 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II 卒業研究 地震と火山1	鈴木 寿志 (51) <平成30年4月> 人間学 II コミュニティデザイン演習 I a コミュニティデザイン演習 I b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 地域と環境 災害と防災 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II 卒業研究 地震と火山1			
専	准教授	酒井 恵光 (50) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 社会情報学概論2 情報技術論 プロジェクト研究入門 I プロジェクト研究入門 II プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV 卒業研究	酒井 恵光 (50) <平成30年4月> コミュニティデザイン演習 II a コミュニティデザイン演習 II b コミュニティデザイン演習 III a コミュニティデザイン演習 III b コミュニティデザイン演習 IV a コミュニティデザイン演習 IV b 社会情報学概論2 情報技術論 <b>(削除)</b> プロジェクト研究入門 II プロジェクト研究実践 I プロジェクト研究実践 II プロジェクト研究実践 III プロジェクト研究実践 IV 卒業研究 <b>コミュニティデザイン演習 I b</b>			





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>					
		担当授業科目名			担当授業科目名		
兼任	准教授	山田 恵文 (47) <平成30年4月>	山田 恵文 (47) <平成30年4月>				
		人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ				
兼任	准教授	徳田 剛 (46) <平成31年4月>	徳田 剛 (46) <平成31年4月>				
		社会学概論 社会問題論	社会学概論 社会問題論 <b>地域社会学</b>				
兼任	准教授	大塚 一浩 (46) <平成31年4月>	大塚 一浩 (46) <平成31年4月>				
		人間学Ⅱ	人間学Ⅱ				
兼任	准教授	藤枝 真 (46) <平成31年4月>	藤枝 真 (46) <平成31年4月>				
		人間学Ⅱ ターミナルケア論	人間学Ⅱ ターミナルケア論				
兼任	准教授	三浦 誉史加 (45) <平成30年4月>	三浦 誉史加 (45) <平成30年4月>				
		発想から表現へ 日本語表現(実践)	<b>(削除)</b> 日本語表現(実践)				
兼任	准教授	高瀬 淳也 (44) <平成30年4月>					
		生涯スポーツ・レクリエーション活動					
兼任	准教授	廣川 智貴 (44) <平成30年4月>	廣川 智貴 (44) <平成30年4月>				
		ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)				
兼任	准教授	井根 忍 (43) <平成30年4月>					
		東アジアの宗教文化					
兼任	講師	新田 智通 (48) <平成31年4月>	新田 智通 (48) <平成31年4月>				
		人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ				
兼任	講師	川端 寿幸 (42) <平成30年4月>					
		探究基礎演習					
兼任	講師	高橋 真 (40) <平成31年4月>	高橋 真 (40) <平成31年4月>				
		インターンシップ1大学コンソ 京都	インターンシップ1大学コンソ 京都				
			<b>野村 実 (27) &lt;平成30年4月&gt;</b>				
			<b>生活問題論</b>				
兼任	講師	諸根 貞夫 (68) <平成30年4月>	諸根 貞夫 (68) <平成30年4月>				
		日本国憲法	日本国憲法				
兼任	講師	高谷 修 (65) <平成31年4月>	高谷 修 (65) <平成31年4月>				
		英語Ⅱ	英語Ⅱ				
兼任	講師	讃 西賢 (65) <平成30年4月>	讃 西賢 (65) <平成30年4月>				
		こころの科学 人間理解の心理学	こころの科学 人間理解の心理学				
兼任	講師	本多 義治 (64) <平成30年4月>	本多 義治 (64) <平成30年4月>				
		脳とこころ	脳とこころ				
兼任	講師	牧野 哲治 (64) <平成30年4月>	牧野 哲治 (64) <平成30年4月>				
		児童福祉 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習	児童福祉 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	東 治子 (63) <平成30年4月>					
		英語 I 英語 II					
兼任	講師	西尾 由利子 (63) <平成30年4月>	兼任	講師	西尾 由利子 (63) <平成30年4月>		
		英語 I 英語 II			英語 I 英語 II		
兼任	講師	松田 美智子 (61) <平成31年4月>	兼任	講師	松田 美智子 (61) <平成31年4月>		
		介護概論			介護概論		
兼任	講師	上羽 毅 (60) <平成31年4月>	兼任	講師	上羽 毅 (60) <平成31年4月>		
		医学一般 保健医療サービス論			医学一般 保健医療サービス論		
兼任	講師	河原 慶子 (60) <平成30年4月>	兼任	講師	河原 慶子 (60) <平成30年4月>		
		身体活動 I 身体活動 II			身体活動 I 身体活動 II		
兼任	講師	中尾 都史子 (60) <平成30年4月>	兼任	講師	中尾 都史子 (60) <平成30年4月>		
		キャリアデザイン概論1 キャリアデザイン概論2			キャリアデザイン概論1 キャリアデザイン概論2		
兼任	講師	山内 小夜子 (58) <平成30年4月>	兼任	講師	山内 小夜子 (58) <平成30年4月>		
		アジア侵略と宗教 非戦の系譜			アジア侵略と宗教 非戦の系譜		
兼任	講師	青木 恵子 (57) <平成30年4月>	兼任	講師	青木 恵子 (57) <平成30年4月>		
		スポーツ研究演習 I スポーツ研究演習 II 身体活動 I 身体活動 II			スポーツ研究演習 I スポーツ研究演習 II 身体活動 I 身体活動 II		
兼任	講師	杉本 理 (57) <平成31年4月>	兼任	講師	杉本 理 (57) <平成31年4月>		
		人間学 II			人間学 II		
兼任	講師	橋本 武也 (57) <平成30年4月>	兼任	講師	橋本 武也 (57) <平成30年4月>		
		高齢者福祉 社会福祉施設経営論			高齢者福祉 社会福祉施設経営論		
兼任	講師	古屋 哲 (57) <平成31年4月>	兼任	講師	古屋 哲 (57) <平成31年4月>		
		社会調査論			社会調査論		
兼任	講師	山口 祥二 (57) <平成30年4月>	兼任	講師	山口 祥二 (57) <平成30年4月>		
		古都の歴史と文化			古都の歴史と文化		
兼任	講師	吉弘 淳一 (56) <平成30年4月>	兼任	講師	吉弘 淳一 (56) <平成30年4月>		
		社会福祉援助技術演習1 社会福祉援助技術演習2 社会福祉援助技術演習3			社会福祉援助技術演習1 社会福祉援助技術演習2 社会福祉援助技術演習3		
兼任	講師	訓嗣 浩 (55) <平成30年4月>	兼任	講師	訓嗣 浩 (55) <平成30年4月>		
		障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に			障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に		
兼任	講師	本林 靖久 (56) <平成31年4月>	兼任	講師	本林 靖久 (56) <平成31年4月>		
		宗教と社会 地域社会論 人と文化			宗教と社会 (削除) 人と文化		
兼任	講師	太田 純 (54) <平成30年4月>	兼任	講師	太田 純 (54) <平成30年4月>		
		英語 I 英語 II			(削除) 英語 II		
兼任	講師	木塚 恵子 (53) <平成30年4月>	兼任	講師	木塚 恵子 (53) <平成30年4月>		
		英語 I 英語 II			(削除) 英語 II		
			兼任	講師	宮前 千穂子 (53) <平成30年4月>		
					部属史論 1 部属史論 2		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	堅田 理 (52) <平成30年4月>	堅田 理 (52) <平成30年4月>				
		仏教と美術	仏教と美術				
兼任	講師	西田 廣和 (52) <平成30年4月>	西田 廣和 (52) <平成30年4月>				
		英語 I	英語 I				
兼任	講師	三木 彰円 (52) <平成30年4月>	三木 彰円 (52) <平成30年4月>				
		人間学Ⅱ インドの宗教と文化	人間学Ⅱ インドの宗教と文化				
兼任	講師	山城 稔暢 (52) <平成30年4月>	山城 稔暢 (52) <平成30年4月>				
		画像処理入門 画像処理応用	画像処理入門 画像処理応用				
兼任	講師	河井 純子 (51) <平成30年4月>	河井 純子 (51) <平成30年4月>				
		英語 I 英語 II	英語 I 英語 II				
兼任	講師	笠原 俊典 (50) <平成30年4月>	笠原 俊典 (50) <平成30年4月>				
		仏教福祉論	仏教福祉論				
兼任	講師	川田 耕 (50) <平成31年4月>	川田 耕 (50) <平成31年4月>				
		文化社会学 社会学史	文化社会学 社会学史				
兼任	講師	福山 幸子 (50) <平成30年4月>	福山 幸子 (50) <平成30年4月>				
		カウンセリング	カウンセリング				
兼任	講師	田中 智子 (49) <平成30年4月>	田中 智子 (49) <平成30年4月>				
		近代日本とアジア	近代日本とアジア				
兼任	講師	種子田 香 (49) <平成31年4月>	種子田 香 (49) <平成31年4月>				
		英語 II	英語 II				
兼任	講師	濱島(宮川)淑恵 (49) <平成32年4月>	濱島(宮川)淑恵 (49) <平成32年4月>				
		相談援助の理論と方法4 社会福祉援助技術演習4	相談援助の理論と方法4 社会福祉援助技術演習4				
兼任	講師	池末 陽子 (48) <平成31年4月>	池末 陽子 (48) <平成31年4月>				
		英語 II	英語 II				
兼任	講師	滋野 浩毅 (48) <平成30年4月>	滋野 浩毅 (48) <平成30年4月>				
		公共政策概論1 公共政策概論2	公共政策概論1 公共政策概論2				
兼任	講師	杉山 正治 (48) <平成30年4月>	杉山 正治 (48) <平成30年4月>				
		PC利用によるプレゼンテーション Webサイト構築入門 Webサイト構築応用	PC利用によるプレゼンテーション Webサイト構築入門 Webサイト構築応用				
兼任	講師	狭間 芳樹 (48) <平成30年4月>	狭間 芳樹 (48) <平成30年4月>				
		思考法入門 ポルトガル語圏のくらしと言葉1 ポルトガル語圏のくらしと言葉2	思考法入門 ポルトガル語圏のくらしと言葉1 ポルトガル語圏のくらしと言葉2				
兼任	講師	森 禎弘 (48) <平成31年4月>					
		PC利用による表計算入門 PC利用による表計算応用					
兼任	講師	瀬戸 奈美子 (47) <平成31年4月>	瀬戸 奈美子 (47) <平成31年4月>				
		英語 II	英語 II				



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	日高 周平 (47) <平成30年4月>	日高 周平 (47) <平成30年4月>				
		英語 I	英語 I				
兼任	講師	松本 宏史 (47) <平成32年4月>	松本 宏史 (47) <平成32年4月>				
		権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度				
兼任	講師	鷗見 晃 (46) <平成30年4月>	鷗見 晃 (46) <平成30年4月>				
		部落差別と浄土真宗1 部落差別と浄土真宗2	部落差別と浄土真宗1 部落差別と浄土真宗2				
兼任	講師	船本 淑恵 (46) <平成30年4月>	船本 淑恵 (46) <平成30年4月>				
		障害者福祉 社会福祉援助技術現場実習指導II 社会福祉援助技術現場実習指導III 社会福祉援助技術現場実習	障害者福祉 社会福祉援助技術現場実習指導II 社会福祉援助技術現場実習指導III 社会福祉援助技術現場実習				
兼任	講師	佐久間 思帆 (45) <平成30年4月>	佐久間 思帆 (45) <平成30年4月>				
		英語 I 英語 II	英語 I 英語 II				
兼任	講師	横澤 大典 (45) <平成30年4月>	横澤 大典 (45) <平成30年4月>				
		ワード・プロセッシング入門 ワード・プロセッシング応用	ワード・プロセッシング入門 ワード・プロセッシング応用				
兼任	講師	生田 敬司 (44) <平成30年4月>	生田 敬司 (44) <平成30年4月>				
		PCミュージック入門 PCミュージック応用	PCミュージック入門 PCミュージック応用				
兼任	講師	清水 洋平 (44) <平成30年4月>	清水 洋平 (44) <平成30年4月>				
		人間学II 東南アジアの宗教文化	人間学II 東南アジアの宗教文化				
兼任	講師	伊村 大樹 (43) <平成30年4月>	伊村 大樹 (43) <平成30年4月>				
		英語 I 英語 II	英語 I 英語 II				
兼任	講師	長友 薫輝 (43) <平成31年4月>	長友 薫輝 (43) <平成31年4月>				
		社会福祉調査論	社会福祉調査論				
兼任	講師	西本 祐攝 (43) <平成30年4月>	西本 祐攝 (43) <平成30年4月>				
		人間学II 親鸞に学ぶ	人間学II 親鸞に学ぶ				
			<b>平塚 聡</b> (43) <平成31年4月>				
			<b>PC利用による表計算入門 PC利用による表計算応用</b>				
兼任	講師	松本(増田)聡子 (43) <平成31年4月>	松本(増田)聡子 (43) <平成31年4月>				
		相談援助の理論と方法2 相談援助の理論と方法3	相談援助の理論と方法2 相談援助の理論と方法3				
兼任	講師	三上 禎次 (43) <平成30年4月>	三上 禎次 (43) <平成30年4月>				
		地震と火山2 地球科学1 地球科学2 地球環境と生命の共進化	地震と火山2 地球科学1 地球科学2 地球環境と生命の共進化				
			<b>清水 利明</b> (42) <平成30年4月>				
			<b>発想から表現へ</b>				
兼任	講師	桑原(多田)桃音 (41) <平成31年4月>	桑原(多田)桃音 (41) <平成31年4月>				
		現代家族論	現代家族論				
兼任	講師	中村 真里絵 (40) <平成30年4月>	中村 真里絵 (40) <平成30年4月>				
		現代東南アジア事情	現代東南アジア事情				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	野村 洋平 (40) <平成30年4月>	兼任	講師	野村 洋平 (40) <平成30年4月>						
		教育学2			教育学2						
兼任	講師	藤井 渉 (39) <平成30年4月>	兼任	講師	藤井 渉 (39) <平成30年4月>						
		社会政策論			社会政策論						
兼任	講師	高 誠晩 (38) <平成30年4月>	兼任	講師	高 誠晩 (38) <平成30年4月>						
		社会学			社会学						
兼任	講師	木島 菜菜子 (37) <平成31年4月>	兼任	講師	木島 菜菜子 (37) <平成31年4月>						
		英語Ⅱ			英語Ⅱ						
兼任	講師	竹内 早耶香 (36) <平成30年4月>	兼任	講師	竹内 早耶香 (36) <平成30年4月>						
		スポーツと健康の科学1 スポーツと健康の科学2			スポーツと健康の科学1 スポーツと健康の科学2						
兼任	講師	上田 早記子 (35) <平成31年4月>	兼任	講師	上田 早記子 (35) <平成31年4月>						
		情報マーケティング論 社会福祉援助技術演習4 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習			情報マーケティング論 社会福祉援助技術演習4 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習						
兼任	講師	志賀 信夫 (35) <平成30年4月>	兼任	講師	志賀 信夫 (35) <平成30年4月>						
		生活問題論 公的扶助論			(削除) 公的扶助論						
兼任	講師	中田 千穂 (35) <平成30年4月>	兼任	講師	中田 千穂 (35) <平成30年4月>						
		障害者スポーツ論 障害者スポーツ研究演習Ⅰ 障害者スポーツ研究演習Ⅱ 身体活動Ⅰ(障害者スポーツ) 身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)			障害者スポーツ論 障害者スポーツ研究演習Ⅰ 障害者スポーツ研究演習Ⅱ 身体活動Ⅰ(障害者スポーツ) 身体活動Ⅱ(障害者スポーツ) 生涯スポーツ・レクリエーション活動						
兼任	講師	安田(大塚) 恵美 (35) <平成31年4月>	兼任	講師	安田(大塚) 恵美 (35) <平成31年4月>						
		司法福祉論			司法福祉論						
兼任	講師	岡崎 沙織 (34) <平成30年4月>	兼任	講師	岡崎 沙織 (34) <平成30年4月>						
		教育学1			教育学1						
兼任	講師	児島 康介 (31) <平成30年4月>									
		生命のしくみと多様性 自然と生物の科学									
			兼任	講師	濱野 亮介 (33) <平成30年4月>						
					東アジアの宗教文化						
			兼任	講師	古俣 慎也 (30) <平成30年4月>						
					生命のしくみと多様性 自然と生物の科学						
兼任	講師	山東 綾乃 (29) <平成30年4月>	兼任	講師	山東 綾乃 (29) <平成30年4月>						
		相談援助の理論と方法1 社会福祉援助技術演習1 社会福祉援助技術演習2 社会福祉援助技術演習3 社会福祉援助技術演習5			相談援助の理論と方法1 社会福祉援助技術演習1 社会福祉援助技術演習2 社会福祉援助技術演習3 社会福祉援助技術演習5						

(注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、既勤既免は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。  
・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。  
・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。  
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

(記入例)

- ・ 学科専門科目「プロジェクト研究入門Ⅰ・Ⅱ」の担当を専任教授に変更。
- ・ 学科専門科目「プロジェクト研究入門Ⅰ」の担当を専任講師に変更。
- ・ 学科専門科目「コミュニティデザイン演習Ⅰb」の担当を専任准教授に変更。
- ・ 現代総合科目「探究基礎演習」の担当を専任教授に変更。
- ・ 学科専門科目「市民活動論」「現代社会と福祉1・2」を旧学科と共通で開講することから、専任講師のみの担当に加え旧学科兼任教授の担当を追加。
- ・ 共通基礎科目「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」の担当を専任教授に変更。
- ・ 共通基礎科目「人間学Ⅱ」の担当を専任准教授に変更。
- ・ 現代総合科目「部落史論1・2」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 学科専門科目「地域社会論」の担当を専任准教授に変更。
- ・ 現代総合科目「発想から表現へ」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 学科専門科目「生活問題論」の担当を兼任助教に変更。
- ・ 共通基礎科目「英語Ⅰ」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「PC利用による表計算入門・応用」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「生涯スポーツ・レクリエーション」の担当を兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「東アジアの宗教文化」の担当を他の兼任講師に変更。
- ・ 現代総合科目「生命のしくみと多様性」「自然と生物の科学」の担当を他の兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
5	3	3	0	11	5	3	3	0	11	5	3	3	0	11
(5)	(3)	(3)	(0)	(11)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{11} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)									
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>該当なし。</p>
--------------

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未 履 行 事 項 に つ い て の 実 施 計 画
設 置 時 (平成30年4月)	①大谷大学文学部文学科の入学定員超過の是正に努めること ②大谷大学短期大学部仏教科及び九州大谷短期大学福祉学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	①平成29年度の超過率が1.61倍となつてことについて、入学定員の厳格化に努め、平成30年度は0.91倍となつた。 ②大谷大学短期大学部仏教科については、その教育機能を文学部へ発展的に統合し、平成30年度より学生募集を停止することとした。 九州大谷短期大学福祉学科については、学生募集の強化に努めるも0.34倍という結果になつた。さらなる募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進める。	九州大谷短期大学福祉学科については、入学者支援を含めた募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進める。
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未 履 行
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未 履 行
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			未 履 行
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			履 行 済
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			未 履 行
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			未 履 行
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			履 行 済

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の  
審附行為又は審附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等  
について、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を  
全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。  
その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入して  
ください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)



## 7 その他全般的事項

<社会学部 コミュニティデザイン学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
特になし。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

###### 教務委員会「FD部会」

全学をあげて取り組む姿勢を明確にするため、教務委員会の中にカリキュラムの検討を中心とする「教務部会」と、FD活動を中心とする「FD部会」とを2007年度に設置。FD活動とカリキュラムの連携を図りながら、取り組みを進めている。

##### b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

本学として必要なFD活動を検討するFD部会を年6回程度開催。

##### c 委員会の審議事項等

###### FD部会の審議及び推進事項(教務委員会規程第3条第2号)

ア 教育内容及び授業方法改善のための具体案(各授業科目における「授業計画(シラバス)」の記載内容の確認を含む。)

イ 授業評価アンケートの活用

ウ FDに係る研究会及び研修会の実施

エ FDに係る調査及び研究

オ その他FDに関すること。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

###### FD部会活動内容

- ・ 新任教員向けFD研修会の実施
- ・ 授業評価アンケートの活用による授業優秀賞・事情確認科目の検討、事情確認対象科目担当者への確認
- ・ 授業優秀賞受賞科目の授業公開の実施
- ・ 全学的な教職員向けFD研修会の実施
- ・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告
- ・ 「授業計画(シラバス)」の記載内容確認及び修正が必要な科目の内容修正依頼

##### b 実施方法

全学的は研修会や授業公開については、非常勤講師も含め実施を告知。対象者が限定されるものについては、原則、対象者全員参加として呼びかけている。

##### c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・ 新任教員向けFD研修会（2017年6月28日実施）
- ・ 授業評価アンケートの活用（2017年10月9日・2018年3月26日FD部会にて検討・決定）
- ・ 授業公開の実施（2017年11月15日～12月25日に開催：対象科目6科目）
- ・ 教職員向けFD研修会の実施（2017年11月22日開催、講師：本学教授 荒瀬 克己）
- ・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告（FD部会にて随時報告）
- ・ 「授業計画（シラバス）」の記載内容の確認（2018年2月実施）
- ・ 教職員向けFD研修会については、研修会内容をビデオ撮影し、学内ネットワークにて動画配信を実施（非常勤講師を含め本学教職員限定配信）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修会や懇話会を開催することにより、本学学生の実情を把握し、本学の教育理念や育成する学生像の共有を図り、継続的な授業改善に取り組むことの意識付けを行っている。

個々の授業担当者の資質向上を図るために、「学生による授業評価アンケート」を活用し、半期ごとの振り返りをおこなっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価アンケート」を、本学の内部質保証に係るFDとして、本学の教育システムの不断の点検・改善に役立てると同時に、授業担当者が日頃の教育活動の成果を確認し、今後の授業改善の参考資料として活用するために、全学を対象に実施している。

前期については、6月下旬から7月上旬に実施。後期については、12月上旬から12月中旬にかけて実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケート結果については、各授業担当者に科目ごとに報告される。アンケート内容は、Ⅰ. 授業について、Ⅱ. 授業における受講生の取り組みについて、Ⅲ. 総合評価、Ⅳ. 担当教員が設定する独自の設問、Ⅴ. 自由記述からなっており、数値やグラフにして提供している。

受講学生に対しては、学内ネットワーク上に科目ごとの評価結果を公開し、自由に閲覧できるようになっている。また、大学全体及び学部ごとの評価結果を大学HP上に公開し、社会一般からの閲覧に供している。

公開の時期は、ともに前期が10月頃、後期が3月頃に公開をおこなっている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

建学の理念を仏教、殊に浄土真宗に据え、いかなる時代・社会の状況においても、自己と人間の課題を深く見詰め、人間の立脚地を考えつづける姿勢をその学びの根幹においてきた。つまり、自己の信念の確立を建学の理念として掲げ、学修、研究をすすめてきた。その達成の状況は、建学の理念、教育目標のもとに各方針、教育内容やその方法等を体系的に関連づけた体制として構築し、各学部・学科、各研究科・専攻とも学生に対する教育、研究指導を完全に実施しており、そのことは、平成27年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、同協会の大学基準に適合していると認定された。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 平成30年7月下旬頃 公表予定

b 公表方法

- ・ 内部質保証委員会委員、各学部・学科及び各研究科・専攻の長、並びに事務部長に報告書を配付。
- ・ 大学ホームページ上に公開（平成30年7月下旬頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成34年度に、公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受ける予定で準備を進めている。

(注)・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を

含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 （  有 ・  無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年 10月 1日予定 ）

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で